

# 西神ニュータウン研究会 会報

第234号 2024年1月

## ■第234回例会兼第2回西区史談会例会記録

- ・日時 2023年12月20日(水) 18:00~20:00
- ・場所 ユニテイ特別会議室 ・参加16名
- ・テーマ 「明石西國順禮道を巡る」
- ・講師 木村 英昭氏(明石史話研究会 会長)



## ■明石西國順禮道を巡る 一身近な史跡を訪ねる旅

### ◇明石城…築城時、東播磨南東部が領内

- ・築城時は、明石郡と三木郡(美囊郡)の全域、加東郡と加古郡の一部…高10万石が領内であった。
- ・のち、明石郡全域と三木郡の一部計7万石に、さらに6万石となり、幕末には8万石となった。

### ◇宮本武蔵…明石城下のまちづくりにかかわった

- ・明石城内や寺院の庭造りも行った。

### ◇旧明石郡は天台教圏であった。

- ・旧明石郡は明石市のほぼ全域と神戸市西区と垂水区の全域。
- ・大山寺(今は太山寺)を頂点として、如意寺・日輪寺・善楽寺・多聞寺等の天台宗の寺院が強大な「天台教圏」を形成し、周辺部に性海寺・近江寺・最明寺・転法輪寺などの真言宗の寺院が立地し、格式の高さを誇っていた。
- ・鎌倉以降には、浄土宗や禅宗も入ってきている。

### ◇300年余りの歴史を持つ「旧明石郡三十三ヶ所順禮」

- ・明石にある善楽寺実相院から福蔵寺まで旧明石郡内三十三か所を巡る観音巡礼が行われていた。
- ・明石藩内ではなく旧明石郡内に設けられた。
- ・貞享2年(1685)7月に始まったと「明石記」に書かれている。
- ・4月、5月になると白い装束で巡礼する人がいた。
- ・何日もかけて歩いて巡るので、飴玉ほしさから子供が「うちに泊まって」と言っていた。
- ・三十三か所は観音様のある寺々で、観音様を知ってもらうためだった。
- ・大正10年(1921)から始まった「明石郡四国八十八ヶ所」とともに、巡礼者が行き交っていた。
- ・昭和20年まで年中行事として260年余り続いていたが、戦災で焼けた寺院があったり、社会情勢の変化等により、戦後は自然消滅状態だったが、昭和59年(1984)明石史話会によって史蹟見学コースとして



よみがえった。

- ・翌昭和 60 年には、明石西国三十三ヶ所観音霊場会が、四ヶ寺を付け加えて「新明石西国」を発足させている。
- ・コースは、明石にある一番実相院をスタートし、まずは海岸を西へ行く。七番講堂寺、新七番薬師寺から十番當光寺まで戻りそこから北上する。三つのニュータウンの周りを巡り、垂水区から明石に戻るものである。
- ・途中、魚住では南北朝時代の落ち武者の家に鎧があったり、友清では玄関に火縄銃のある家があったりした。
- ・当初の三十三か所の多くが現存するとともに、昔ながらの集落や巡礼道の残っているところもあり、寺院を訪れるだけでなく、道中も楽しむことができる。道標なども面白い。

明石郡三十三所順禮	貞享二己丑年七月二始ル
一番法寫山實相院	中庄
二番月浦山無量光寺	同
三番御嶽山西林寺 <small>今ハ神應寺ト云</small>	林村
四番御滝山松江寺	松江村
五番鷲峯山龍泉寺	藤江村
六番月輪山來迎寺	西八木村
七番補陀山講堂寺	西江井村
八番 極樂寺	西嶋村
九番大悲山浄水寺	鳥羽新田
十番井上山當光寺	和坂村
十一番安樂山福藏寺	吉田村
十二番永諸山観音寺	下津橋
十三番北林山高閑庵	印路村
十四番北峯山勝明寺	西戸田
十五番白滝山清水寺	和田村
十六番高和山性海寺	
十七番近江山近江寺	
十八番五穀山満福寺	寺谷村
十九番長谷山新長寺	友清村
二十番願光山万願寺	池谷村
廿一番比金山如意寺	
廿二番普光山日輪寺	
廿三番池上山福林寺	池上村
廿四番今山潮海寺	南別府
廿五番願光山大谷寺	小寺村
廿六番 太山寺	
廿七番龍華山轉法輪寺	中山村
廿八番竜花山明王寺	滑山村
廿九番吉祥山多聞寺	
三十番遍照山光明寺	鍛冶屋町
卅一番松浦山寶林寺	材木町
卅二番竜王山長林寺	大明石
卅三番竜幡山福藏寺	馬屋町
右三十三所道法凡	
歌ハ下見タリ	
(長野恒臣「明石記」よ)	

◇いくつかのエピソード

- ・四番松江寺は、今は正護寺になっている。
- ・十番當光寺は和坂村にあり、かにかがさかと読む。昔は蟹の字を書いていたが和と書いてかにかと呼ぶようになった。新しい住居表示では和坂（わさか）と呼んでいるが、近くには和坂（かにかがさか）幼稚園がある。
- ・十九番は新長寺と書かれていて、新長谷寺ではない。
- ・二十一番如意寺。永享 2 年（1430）付けの明石氏からの寄付状が残されている。明石氏の館が今の櫛谷町菅野にあった。
- ・二十五番大谷寺。もとは近くの頭高山にあったが兵火で焼失し、今の場所に来た。
- ・二十九番多聞寺から三十番光明寺への道は淡路島を見ながら南へ下りる道だったが団地開発でなくなってしまった。
- ・調査する中で、七番講堂寺の御朱印と十九番新長谷寺の木版観世音菩薩像をいただいた。
- ・三十三番福藏寺は戦災で焼け、その後の区画整理事業により敷地が道路で分断されてしまった。

